

—大阪大学—  
www.osaka-u.ac.jp  
**NewsLetter**

号外



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY  
Quarterly Magazine  
2014: 12/04

# 阪大生 糸谷哲郎さんが 将棋の「竜王」に！

プロ将棋棋士で、現在阪大大学院文学研究科で哲学を専攻する糸谷哲郎さんが、将棋七大タイトルの一つ「竜王」を獲得しました。現役学生が同タイトルを取るのは初めてとのこと。糸谷さんは、七番勝負3勝1敗で臨んだ第5局(12/3-12/4)、森内俊之竜王に勝利し、初のビッグタイトルを手に入れました。



## ●将棋界のホープ

# 最高峰「竜王」奪取の快挙 将棋と哲学を究める阪大生

●文学研究科文化形態論専攻 博士課程  
将棋棋士・八段・竜王  
糸谷哲郎——Tetsuro Itodani

日本将棋連盟関西本部所属のプロ棋士、糸谷哲郎さんは、大阪大学大学院文学研究科の現役学生。今秋、初のタイトル戦で、見事第27期竜王の座を勝ち取った。若手棋士仲間とともに「将棋界を盛り上げよう」と新しい形の将棋普及活動に取り組むなど、活躍ぶりが目覚ましい。



▲糸谷哲郎著  
「現代将棋の思想  
～手損角換わり編～」  
(マイナビ・2013)

今年9月、竜王戦挑戦者決定戦で羽生善治名人を破り、同時に七段へ昇段。タイトルを懸けた森内俊之竜王との七番勝負では、12月3日、4日の対局に勝利し、4勝1敗として竜王奪取の快挙を成し遂げた。

タイトル戦期間中、籍を置く大学院は一時休学。普段は原書の哲学書を読み込み「人間の背景」への考察を深める。「例えば、食事をする時にどこの店に行くかを決定する能力とは、果たして何に基づくのか、といったことを考えたりしています」

小学4年で新進棋士奨励会に入り、高校3年時にプロ棋士となる。大阪大学文学部へは現役合格。箕面市で一人暮らしをしながら「職場」である関西将棋会館(大阪市福島区)とキャンパスへ通う生活を続けている。

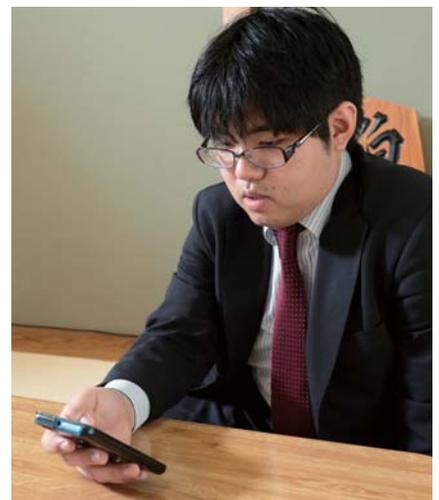
ここ数年、地方への出張が増え、ことに大学院進学後は仕事に費やす時間が増えた。対局以外にも、将棋の普及活動に積極的に携わりだしたことが大きい。プロ棋士とコンピュータが戦う電王戦や漫画などを通して、新しい層のファンが増加。その受け皿を作ろうと、2013年、豊島将之七段、西川和宏五段ら20代の棋士有志でプロジェクト「西遊棋」を発足させた。「将棋って面白そうだなと興味を持ってくださった方たちが、一歩先に進める入り口になれば」と、大盤解説をはじめ、リレー将棋、目隠し将棋、サイン会など、女流棋士も交え各地で多彩なイベントを展開する。ツイッターやフェイスブックでも活動の様子を発信、若手ならではの感覚と発想で、楽しく親しみやすい将棋のアピールに努める。

定跡にとらわれない自由な棋風にファンは多い。「非常にありがたいことです。私の将棋

を面白いと思ってくださることが、価値につながる」イベントなどで子どもさんたちにサインを求められるとうれしい」と笑顔を見せる。

将棋とともに幼少時から読書に親しむ。就学前に漢字が読めたそうで「ミヒヤエル・エンデから入り、小学生の時には古本屋通い。星新一、小松左京、司馬遼太郎、高学年になると純文学に手を出して」という早熟ぶりだ。今も推理小説を多く読み、好きな作家は麻耶雄嵩。音楽はロックをよく聞き、ライブハウスにも足を運ぶ。

勝つことへのプレッシャーについては「その世界に身をせずめっていると、まひしてくるといふか、だんだん当たり前になってくる。大きい一番の時にその感覚が揺れ戻ってくることはあるのですが、流すすべも身に着けている。プレッシャーは盤上では出さない」ときっぱり。同じ広島県出身の升田幸三名人(1918～1991)の言葉「新手一生」、すなわち「一生涯新しい手を指し続ける」が目標。「自分じゃないと指せないような将棋を見ていただきたい」



▲ツイッターやフェイスブックで将棋の魅力を発信している

●糸谷哲郎(いとだにてつろう)  
98年日本将棋連盟・新進棋士奨励会入り。2006年17歳でプロ棋士になる。森信雄門下。06年度新人王戦優勝、新人賞・連勝賞受賞。07年大阪大学文学部入学。11年より同文学研究科在籍。14年竜王戦挑戦権獲得と同時に七段に昇段。同年、竜王獲得により八段に昇段。

関西将棋会館で